

千葉県安房郡白浜町方言の 比喩語について

三井 はるみ

はじめに

1. 調査対象地： 白浜町は、房総半島の最南端に位置し、南は太平洋に面している。人口は6634人（平成2年国勢調査）で、減少傾向にある。主な産業は農業と漁業。農業は、現在は、温暖な気候を利用しての花作りが中心で、米作や野菜作りを上回っている。漁業は、沿岸漁業の他、海女によるアワビ・イセエビ・サザエなどの採取が行われている。海女は現在600人ほどで、調査(1)の話者山口はま氏も元海女。交通は、JR内房線の館山と千倉へバス便があり、いずれも約40分である。調査地の下沢地区は町の中心部で、178戸、人口450人。西横渚地区は、下沢から西へ約1.5kmほどのところにあり、86戸、人口278人。両地区の間にはいくつかの語で地域差のあることがわかっているが、ここでは、それぞれの地区で3分野ずつ調査したその結果を示す。
2. 調査年月日時： 1992年9月18日午後1時～2時20分（《自然現象》《動物》《植物》）一調査(1)
1992年9月20日午後1時～3時20分（《性向》《食生活》《動作・様態》）一調査(2)
3. 話者：調査(1) 山口はま 大正4年3月3日生（77歳）。町内西横渚(ニヨコカ)にて生育。外住歴なし。
調査(2) 宇山きく 明治44年3月5日生（81歳）。町内下沢(シホリ)にて生育。外住歴2年。他に80歳台の女性4名、70歳台の男性1名に同席してもらった。
4. 調査者・調査場所：三井はるみ・話者宅
5. 調査方法： 「『方言資料叢刊』第3巻調査票」による面接調査。調査(2)では、同席者からも活発な発言があったが、以下の記述では主たる話者である宇山きく氏の回答、あるいは宇山氏に確認の得られた回答のみを取り上げる。

I 《自然現象》

- | | |
|--------|----------------------------|
| 1 日照り雨 | ○キツネノアメフリ【狐の雨降り】 [名] 古 |
| 2 入道雲 | ○ニユードーグモ【入道雲】 [名] / タチグモ 盛 |
| 3 旋風 | ○ツムヅガゼ【旋毛風】 [名] / ツモヅガゼ |
| ◇ 竜巻 | ○タツマキ【竜巻】 [名] / ○タツ【竜】 [名] |

〈竜巻が発生することを「タツ(マキ)が サガル」と言う〉

- 4 霜柱 ○シモバシラ【霜柱】 [名]
- 5 つらら ツナラ
- ◇ 川や田に張った氷 ○カネツコーリ【金氷】 [名] 稀・古 / コーリ 盛
- 6 北斗七星 ○ヒシヤクボシ【杓星】 [名] 稀・古 / ホクトシチセー
- 7 昴 N. R.
- 8 流れ星 ナガレボシ / ホシガトシダ
- ◇ —— ○ホーキボシ【箒星】 [名]

〈細かい小さな星がたくさんかたまっていて、全体が箒のような形をしている。この星が見られることはめったにない。昔は「ホーキボシガ テルト シテガ クル (または サイナンガ クル)【ほうき星が出ると時化(災難)が来る】」と言った〉

II 《動物》

- 9 かわはぎ カハギ
〈口が細く尖った種類のもは、○ンマズラ【馬面】 [名]
○ンマズラカハギ【馬面かわはぎ】 [名]という〉
- 10 ひらめ ヒラメ
- ◇ 電気くらげ ○イトヒリ【糸ひり】 [名]
〈普通のくらげと違って、透明の長い「糸」をたくさん出しているから。その糸に触れるとチリチリッと刺されて痛い〉
- 11 ひきがえる オアングー 古
- ◇ おたまじゃくし ○オタマジヤクシ【お玉杓子】 [名]
○タラグ【田河豚】 [名] 老・稀・古(河豚との形の類似からか)
- 12 青大将 ○アオダイショー【青大将】 [名]
- ◇ まむし ○ヒトクレアー【人食らい】 [名] / マムシ
- 13 とかげ カマギリ / カマギッチョ / トウダ 新
- 14 かまきり カンギリ / カマギリ
- 15 みずすまし ○ゲンゴロームシ【源五郎虫】 [名]
- ◇ ごきぶり ○トダナンダンチ【戸棚の旦那】 [名] 稀
〈昔は戸棚の中などにおいて、戸を開けると出てきた〉
- アブラムシ【油虫】 [名] 新 / ヘーハチ
- 16 きつつき N. R.
- 17 せきれい ○ムギマイドリ【麦蒔き鳥】 [名]
〈畑で麦を蒔く頃に姿を現す鳥〉

18 ふくろう

フクロー / ミミズク 稀・古

III <植物>

19 馬鈴薯

ジャガイモ

20 とうもろこし

トモローシ

21 いんげん豆

インゲン

22 そら豆

ソラマメ

23 木くらげ

○キクラゲ【木海月】〔名〕

24 げんのしょうこ

ゲンノショウコ / テンアゲサ

25 どくだみ

ドクダミ

26 いたどり

○カッタオレ【川倒れ】〔名〕

<川の側に生えていて、一年で倒れる草だから>

27 からすうり

カラスウリ

28 すみれ

スミレ

29 春蘭

N. R.

30 母子草

アービグサ

31 ねむの木

N. R.

◇ おおぼこ

○ホジツバ【鬼灯葉】〔名〕老・古

<「ほうずきの葉」という意味。葉を採って塩をして柔らかくしてから、その葉の縁をすぼめて袋状にし、中に息を吹き込んでほうずきの実のような丸い形にして、遊んだ。子どもの頃、自分より年上の人たちが、やっていた>

IV <性向>

32 熱しやすく冷めやすい人

アイツピー

33 あわてん坊

オッチョコチヨイ

34 動作の鈍い人

ノロマ / ガズガズー

35 嘘つき

オソッポーシポー

36 ほらふき

○オーブルシキ【大風呂敷】〔名〕

オーギサモン 盛 / ホラップキ

37 おしゃべり

○タテイタニミズ【立て板に水】稀 / ベラベラー

ダイダス【動】<人にしゃべらせず自分ばかり話すこと>

◇ 歌声のきれいな人

○マルデ ヒバリフヨーダ【まるで雲雀のようだ】稀

38 冗談言い

ヒョーケンポー

39 口先だけの人

○ベテンシ【ベテン師】〔名〕稀・新 / ウソシロモン

- 40 とんちんかんなことを言う人 N. R.
- 41 のらりくらし煮え切らない人 グズーボ / グゾーボ
- 42 怒りっぱい人 キガハエ
- 43 気むらな人 ○オテンキヤサツ【お天気屋さん】〔名〕稀
○ニユーバイミタイナ ヤローダ【入梅みたいな野郎だ】稀
〈ニユーバイ (=梅雨)の天気は晴れたり曇ったりするから〉
- 44 泣き虫 ナイビー
- 45 おてんば娘 ○オンチゴヤロー【女子野郎】〔名〕盛
〈女なのに野郎 (=男の子)のように活発な子〉
ヤローアッパシ【野郎あっぱし】〔名〕
- 46 腕白坊主 ○グエンチョー【臥煙ちょう】〔名〕
(話者には、比喩意識・語源意識はない。『日本方言大辞典』では、「がえん【臥煙】」の項で、東海・中部地方各地などに見られる、「暴れ者」「餓鬼」などの意味の「がえん」を、乱暴者の多かった江戸時代の町火消し「臥煙」から来たものとしている。当地の「グエンチョー」も同様のものか。ただし、「チョー」の部分は不明。なお「臥」の音は「グ」である)
- グンミン
- 47 でしゃばり デシャバリ
- 48 どこへでも顔を出す人 デシャバリ
- 49 家にこもって外出しない人 デズンボ
- 50 小心者 オクビョーモ / キガ チーチャッゲー
- 51 内弁慶 ○ウチベンケー【内弁慶】〔名〕
- 52 人づきあいをしない人、社交性のない人 N. R.
- 53 妻に対して頭の上がらない男 ○アシ シタエ シアレル【足の下へ敷かれる】盛
○ザブドンミタイダ【座布団みたいだ】稀
- 54 けち ケチンボ / チーチー
- 55 欲張り ヨクバリー

V 《食生活》

- 56 大食漢 オーグレアソー
- ◇ 好き嫌いなく何でも食べる人 ザルサメ

(話者には「ザル」の部分で容器のざると関係する意識はないが、冗談で、「ざるでいっぱい入れたものを食べるから」という)

- 57 ぼたもち オハギ
58 砂糖味が薄い ダミー
59 塩味が薄い ウシー / ショガ ッギャネー
60 大酒飲み サケクレアー / ノンダクレアー
61 酒に酔ってくだをまく サガグセガ ワリー
62 酒に酔って赤くなる、そのさま ○マルデ アカウテ ベンケーノ ヨーダ【まるで赤くて弁慶のようだ】
〈酒を飲んだ時だけでなく、いつも赤ら顔の人のこともいう〉

VI 《動作・様態》

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま
○カオカラ ヒガ デル【顔から火が出る】
- 64 どしゃ降りの雨 ○アメガ オッコボス【雨がおっこぼす】
〈コップの水をこぼすことも「オッコボス」という。バケツか何かをあけたように、一度に大量に降るということ〉
アメガ ウッチャイテキタ 盛
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま
ビショヌレ 稀 / ダラダラーンチッタ 盛
- 66 服装がだらしないさま
N. R.
〈着物の前がはだけていることは「ウッチャイハダケテル」「ウッチャイハガシテル」という〉
- 67 髭がのび放題なさま
N. R.
〈伸び放題に伸びた髭は「ブシヨーヒゲ」という。少し伸びかけた髭は「ブシヨーヒゲ」とはいわない。「ブシヨーヒゲ」を伸ばした人を「ブシヨーマブ」という〉
- 68 厚化粧をしている人
○シラカバ ヌッターヨーダ【白壁塗ったようだ】稀・新
〈昔は化粧をしなかったもので、このようなことを表す言い方もなかった〉

シャレモン / アツゲショー

69 背丈の高い人 セータカフッポ

◇ 太っていて背が高くがっしりした人

○オニョーサマノヨーダ

〈当地では「入道」のことを「オニョーサマ」という〉

70 出びたい ○ハコデコ【箱でこ】[名]

〈「デコサン」の中でも、額が特に出ていて幅が広く、四角ばっている人。また、そのような額。「箱のように四角い額」という意味〉

○ハコデコサン【箱でこさん】[名] / デコサン

◇ 頭の後ろが出ている人 ウシロデコ【後でこ】[名]

◇ 器量の悪い男 ○ヒョットコ【名】

71 汗が額から落ちる ○タマフ アセ【玉の汗】[名]

〈「タマフ アセ ケアーテ ダラダラーダ (または ダラダラーン チッチマッタ) 【玉の汗かいてダラダラーだ (ダラダラーになっちまった)】」などと言う。働いた後に汗をたくさんかいた様子。額から流れるとは限らない〉

○ヒアアセ【火の汗】

〈「ヒアアセ カイタ【火の汗 かいた】」非常に驚いて汗をかいた様子〉

72 目を丸くする ヌー マルーシタ

73 口をとがらす オツプーラスル〈怒った顔をする〉

74 焦げ臭いにおい コゲクモター

キンブクセター〈衣服や座布団など布のこげたにおい〉

75 遠廻り(をす) 下ーマーリ / オーマーリ 盛

76 末っ子 シヌターッコ 老・古 / バッシッコ 中・新 / バッシ / スエッコ 若・新

77 がんばる ガンバル

注： 比喩語・比喩表現には○を付した。回答に関する解説は、話者によるものを〈 〉内に、調査者によるものを()内に示した。複数の回答がある場合には、比喩語・比喩表現を先にあげた。一行に二つ以上の回答を示すときは、/で区切った。◇は調査票にない項目。

(みついはるみ 昭和女子大学短期大学部)